



謹賀新年

田口病院長のお父様の作品です。

新年のご挨拶

新年を迎えて



山口大学医学部附属病院
病院長 田口敏彦

皆さん、明けましておめでとうございます。

今年は例年よりも少し長めの正月休みとなりましたが、ゆっくり休むことができましたでしょうか?心機一転、決意も新たに今年も頑張ろうと思っておられるところだと思います。

本院は昨年、新病棟建設に向かって大きく前進した年となりました。2014年は、立案したプランをさらに具体的に実現していかなければならない重要な年になります。

そこで、病院再整備における本院が目指す将来像及びそれを実現する基本戦略を具体的に呈示しました。

すなわち

『Your Health, Our Wish』(あなたの健康が私たちの幸せ)

を合言葉に、本院は4つの分野に分けた目標を掲げます。

1. **教育・研修**: 「医新前進」する医療プロフェッショナルを育成します。
2. **研究開発・先進医療**: アカデミズムあふれる風土のもと、世界に発信する先進医療の開発と実践を推進します。
3. **地域医療推進**: 地域医療のリーダーとして「頼りになる病院」を目指します。
4. **病院基盤強化**: 安心・安全で効率的な病院を目指し、患者さんと職員の満足度を向上します。

どの目標も大きすぎるかもしれませんが、しかし大きな目標を掲げることをためらっては いけません。大きな目標を達成するために必要な力を鍛え上げるには、チャレンジ精神が必要です。私たち職員自身の成長と能力の開発のためにも、大きな目標に挑まなければなりません。

しかし、これらの大きな目標も、結局は小さな目標を着実に積み上げた結果、達成できるものだと思います。私たち職員のひとりひとりが、「創意工夫」しながら、しくみを見直す、作業を見直す、経費を見直す等々、とにかくできることから工夫を始めようではありませんか。そして、患者さんや地域の皆さんとも力を合わせて山口大学医学部附属病院が、これから先30年、50年と「存続するに値する病院」にしていきたいと思っていますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

職員の皆さんには、大きな夢をもって仕事に取り組んで頂くことをお願いいたしまして、私の新年の挨拶に代えさせていただきます。どうか皆さん、心を一つにして頑張ってください。

Information

肝硬変患者に対する自己骨髄細胞投与療法(先進医療B)について

本院の「C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変患者に対する自己骨髄細胞投与療法の有効性と安全性に関する研究」が、6月1日付けで厚生労働省から「先進医療B」として承認されました。

「先進医療B」による臨床研究の実施準備が整いましたのでお知らせいたします。

なお、本臨床研究に関して、電話やメール等による個別の対応は行うことができませんので、ご寛恕くださいますようお願いいたします。

詳細は、ホームページをご覧ください。

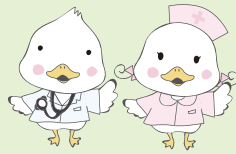
<http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/about/senshin-b.html>

病院機能評価の訪問審査を受審しました

10月28日(月)・29日(火)の2日間にわたり、(公財)日本医療機能評価機構による病院機能評価の訪問審査を受審しました。

病院機能評価とは、病院が地域に根ざして、安心・安全・信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく努力していることを、第三者の目で、病院の規模や機能に応じた評価項目にそって評価し、病院が改善活動に取り組むことによって医療の質を向上させることを目的としています。

病棟などの視察の際には、ご理解・ご協力をいただきありがとうございます。



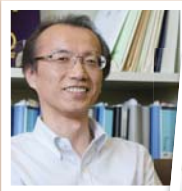
災害・食中毒発生時の患者食の相互援助の協定を締結 6月

宇部興産中央病院、山陽小野田市民病院、山口労災病院及び山口大学医学部附属病院の4院は、災害や食中毒等の発生により患者食の調理施設が使用不能となった場合の相互援助を円滑に行うために協定を締結しました。



ハイブリッド手術室が完成

手術台と心・脳血管 X 線撮影装置を組み合わせたハイブリッド手術室が完成し、カテーテルによる血管内治療、外科手術およびそれらを組み合わせたハイブリッド手術などの最新の医療技術への対応が可能となりました。



中井彰教授



藤本充章講師

医化学の中井彰教授と藤本充章講師が「FEBS Journal Top-Cited Paper Award」を受賞

10月 生体機能分子制御学の小林誠教授が「平成25年度中国地方発明表彰発明協会会長奨励賞」を受賞



小林誠研究室

がん・なんでも相談窓口を開設

がんの予防から早期発見・早期治療につながるよう、医療・保健・福祉サービスの情報提供などの支援窓口として、看護師や医療ソーシャルワーカーが様々な相談に応じます。

問合せ先：0836-22-2473



なんでもご相談下さい

感染制御室の小坂まり子看護師長が「山口県健康福祉功労者知事表彰」を受賞



6月

環境統御健康医学の田邊剛教授が「宇部興産学術振興財団第53回学術奨励賞」を受賞



中国地方5県によるドクターヘリ広域連携に係る基本協定の締結

協定締結により、緊急性を有すると認められる場合には他県のドクターヘリの要請が出来ることとなり、また、災害発生時の運用においても各県が協力して行うことが確認されました。



「東日本大震災における被災者の支援活動等に対する厚生労働大臣感謝状」伝達式

4月

功績が認められ、本院を含め県内14の病院・団体に感謝状が贈られました。今後でもできる限りの支援を進めてまいります。



第一外科の上田和弘講師が「2013年度日本呼吸器外科学会賞」を受賞

5月

耳鼻咽喉科の中本哲也助教が「国際耳鼻咽喉科学振興会の「SPIO」 Award」を受賞



※1 SPIO：日本耳鼻咽喉科学会の関連団体

2013年の
山大病院を振り返って



PICK UP コラム 地域医療 だより

禁煙外来と 地域医療のはなし

地域医療推進学講座の中村です。毎週木曜日午後には内科外来で禁煙外来【予約制】をやっています。ここでは、喫煙を単なる習慣や嗜好と考えるのではなく、「ニコチン依存症」という病気としてとらえ本人や家族の健康を守る為に、禁煙補助薬を用いて、約3か月のプログラム(図1)で患者さんの禁煙治療(保険適応)を行います。

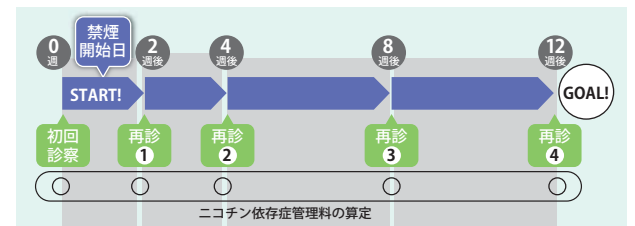


図1：禁煙スケジュール

当院の禁煙外来の近況ですが、過去にはたばこの大幅値上げを機に受診者が急増する時期もありましたが、現在は毎月の新患者数は数人程度で安定しています。今までに96名(男66名、女30名)の患者さんが受診されており、初年度の禁煙達成率は46%でしたが、最近では50%で推移しております。禁煙外来では脱落例が多く、この脱落をいかに防いで禁煙外来に通ってもらうかが禁煙率向上の秘訣です。地域に対する取り組み(写真1)や、日記帳や貯金箱を作ったりしているのはこのためです。

私たちは、禁煙達成の目的のもと、医師、看護師、薬剤師などの多職種連携によるチームを結成し、日夜禁煙サポートに取り組んでおります(写真2)。



写真1：日本循環器学会での市民公開講座
マスコットは、日本循環器学会認定スワン君です。



写真2：禁煙外来チーム

禁煙外来には紹介状は必要ありません。内科外来(0836-22-2501)に直接お電話頂ければ予約が取れます。禁煙しよう!と思ったら、禁煙外来を思い出してくださいね。



就任インタビュー

2013年11月に医学系研究科臨床検査・腫瘍学分野の教授に就任した山崎隆弘教授に今後の目標等をインタビューしてきました。

患者さん、職員に一言お願いします。

患者さんならばに職員の方々に愛されるような部門にしていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

研究者・教育者としての目標や成し遂げたいことは？

研究では、今までのがん治療研究をさらに発展させ、基礎研究だけに終わることなく、臨床に還元していきたいと思っております。臨床医ですので、患者さんに恩恵を与えるのが仕事と思っております。

教育としては、医師のみならず検査技師の方々に対しての人材育成を図ることで山口県の医療さらには世界を視野に入れた医療に貢献していきたいと考えています。

病院内の各部門長として、目標等をお聞かせください。

病院では、検査部長、輸血部長、腫瘍センター長、超音波センター長、再生・細胞治療センター長といった様々な部門長を拝命しました。これらの部門は、患者さんの日常のニーズにお応えする部門から最先端治療を行なっていくべき部門まで幅広く包括しています。

私の一番の仕事は、患者さんが安心して適切な検査・治療を行えるような環境づくりです。さらに、様々な部門が有機的に連動できるようなシステム環境を構築していきたいと考えています。

自己紹介をお願いします。

山口大学を昭和61年に卒業、消化器内科(第1内科)に入局し、とくに肝臓治療を専門として診療・研究を行ってまいりました。佐賀県佐賀市の出身ですが、30数年を山口で過ごし、すっかり山口県人となっています。佐賀も山口も維新にゆかりのある地ですし、肥前から長州に辿りついたのも何かの縁と思っています。



様々な出来事をご紹介。 イベント・レポート



2013
9月

動物慰霊祭



9月24日(火)、動物慰霊祭を行いました。教職員及び学生等約200名が参列し、実験動物の御霊に感謝の意を捧げました。

はじめに坂井田医学系研究科長から、平成24年度に人類のため犠牲となった動物の御霊に対して感謝の言葉が述べられました。続いて、研究者を代表して、医化学分野の中井教授からの慰霊の言葉、村田生命科学実験施設長から研究の状況等について報告がありました。

最後に、参列者全員が献花を行い、慰霊祭を終了しました。

2013
10月

解剖献体者慰霊祭



10月11日(金)、宇部市渡辺翁記念会館において、平成25年度解剖献体者慰霊祭をしめやかに執り行いました。

祭主の坂井田医学部長をはじめ、西田理事(学長代理)、田口医学部附属病院長(会長代理)、御遺族、白蘭会会員および教職員・学生等約400人が出席しました。

はじめに、今年度に合祀される御霊の報告があり、出席者が御霊に対し黙祷を捧げました。

続いて、祭主、西田理事、田口医学部附属病院長、中村白蘭会理事長、福田霜仁会副会長および学生代表から追弔の辞が述べられた後、出席者全員が順次献花し、御霊を慰めました。

最後に、遺族代表から挨拶があり、慰霊祭を終了しました。

2013
10月

日本フィルハーモニー交響楽団 弦楽四重奏コンサート



10月12日(土)、外来診療棟1階ロビーにおいて、「宇部興産グループふれあいコンサート」日本フィルハーモニー交響楽団弦楽四重奏コンサートを開催しました。

これは、宇部興産株式会社及び楽団のご厚意により、4人の弦楽器奏者に演奏していただいたものです。

コンサートでは、モーツァルトの楽曲や民謡など10曲が演奏され、最後に「青い山脈」を、演奏に合わせて観客みなで合唱しました。

入院患者さん、近隣住民の方など約200人の観客が、弦楽器の美しい音色に触れ、時間が経つのも忘れ、聴き入っていました。

2013
11月

消防訓練

11月12日(火)、宇部消防本部の指導協力のもと、消防訓練を行いました。

訓練では、地震により第1病棟7階の病室から出火したとの想定により、初期消火をはじめ、避難誘導、通報、自衛消防団の設置と、報告訓練を行いました。

今年は7階で防火扉の可動という障害を設けての避難訓練、その他各階ではレスキューマットを使用して患者さんを避難誘導する水平移動訓練等を実践しました。

避難訓練後は、屋内消火栓、消火器の使用法の説明及び操作訓練を行いました。



2013
11月

保健指導 in 小野田工業高校



講師全員での集合写真

11月28日(木)、小野田工業高校において、山口大学医学部と小野田消防署との合同による保健指導が実施されました。

講師は地域医療推進学講座の福田教授、小野田消防署救急救命士3名及び学生サークルのコードオレンジの学生9名で、外傷の応急処置及び心肺蘇生の講義・実技を行いました。コードオレンジは人形を使って胸骨圧迫の仕方やAEDの使用法、小野田消防署は身近にある物の応急処置を説明し、生徒と楽しみながら真剣に行っていました。コードオレンジにとっても、救急救命士による実践的な実技を間近で見ることができ、良い体験となりました。

2013
11月

バレーボール大会 優勝「ギネ」(1病棟4階西)

11月30日(土)に、教職員レクリエーション行事として恒例のバレーボール大会が開催され、全14チーム・総勢177人が参加して、熱戦が繰り広げられました。

栄えある優勝は、2年連続で「ギネ」(1病棟4階西)、準優勝は「The☆術場」(手術部)でした。

おめでとうございませう！



2013
12月

♪「クリスマスの夕べ」で心安らぐ♪



12月24日(火)、外来棟1階ロビーにおいて、恒例の「クリスマスの夕べ」を開催しました。

開演に先立ち、集まっていた入院患者さんなどへ、サンタに扮したスタッフから、クリスマスプレゼントが配られました。

山口大学のマスコットキャラクターである「ヤマミイ」も駆けつけて、「ヤマミイ」からプレゼントを手渡された患者さん達は大喜び、握手などを行いました。

「クリスマスの夕べ」は、院内保育所「たんぽぽ保育園」のさくら組園児による遊戯により開幕し、園児たちの可愛いダンスに温かい拍手が送られました。続いて、伊勢屋次朗氏による「マジックショー」、落合さとこ氏の「ミニコンサート」が行われ、約200人の参加者はとても楽しい時間を過ごしました。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。
毎号、沢山の方々が病院だよりを手に取り、お読みくださっているようで、大変嬉しく思っています！
本年も、より多くの方に読んでいただけるよう頑張りますので、「山大病院だより」をよろしくお願いたします！

編集担当(総務課総務係) K.T.、C.I)

発行情報

企画発行：山大病院だより編集委員会
事務担当：山口大学医学部総務課総務係
TEL：0836-22-2007
E-MAIL：me202@yamaguchi-u.ac.jp